

# SupplyOn 供給先に対するサービスの詳細書(SLB 1.3)

## 1 概況

SupplyOn が供給先（以下「契約先」という）に提供するサービスの範囲は本詳細書によって定められる。本詳細書と主契約のほかに、「SupplyOn サービス一般規約と条件」（最新有効バージョン）、以下「GTC」という、およびそれらに関わる契約の構成部分は、SupplyOn が提供するサービスの内容と、SupplyOn と契約先との契約関係を定める。GTC における定義が本詳細書に適用されるとみなす。

SupplyOn サービスはブラウザインターフェースとお客様内部システムを統合することによって、電子商取引のプロセスを簡単にする。特にソーシング・エンジニアリング、サプライチェーンマネジメント、クオリティマネジメントなどの分野において強みを持つ。SupplyOn サービスはデータのプロセス、仮保存、送信を含む。また、SupplyOnは購入先の関連システムとアクセスデータを統合することによって、契約先にシングル・サインオンを提供する。すなわち、契約先は初回にログインして購入先の内部システムにアクセスした後、再度ログインする必要がなくなる。個別案件においては取引先が作成した規約も含まれる。

## 2 SupplyOnサービスリスト

下記の基本サービスは高級サービスを利用する前提となる。

- SupplyOn Master Data Administration（主データ管理）は会社に関するデータの保存、更新、変更をサポートする。契約先がアップしたデータは購入先より閲覧・ダウンロードされる。

購入先から招待されて、アクセスを申し込んで、それに許可された後、基本サービスを除いて下記のSupplyOnサービスも利用できる（GTC § 3を参照）

- SupplyOn Advanced Auctions（高級オークション）は特定のオークションをサポートする。契約先が入札者として招待されることができる。

- SupplyOn Sourcing（資源管理）はオンライン提出を実現させる。（入札者としてオークションへの参加を含む）

- SupplyOn Document Manager（書類管理）は書類の提供と交換をサポートする。（図面、基準、パーツ提出保証書その他）

- SupplyOn Collaboration Folders（保存フォルダ）はデータの統一保存・管理に利用する仮プロジェクトルームとなる。

- SupplyOn WebEDI（電子データ交換）はブラウザインターフェースを通じて物流と財務プロセスを処理するか、EDIを通じて契約先の内部システムに直接統合する

- SupplyOn Vendor Managed Inventory（供給先在庫管理）は供給先が在庫の減少を随時に見ながら、在庫を管理する。

バージョン1.3（2011年11月）

- **SupplyOn Performance Monitor**（性能監視）は供給先の評価データを示す。
- **SupplyOn Problem Solver**（問題解決）はクレームの処理をサポートする。
- **SupplyOn Project Management**（プロジェクト管理）はプロジェクトの計画・実施をサポートする。
- **SupplyOn Customer Application Access**（顧客管理ツール）は購入先の内部システムへのシングル・サインオン機能を含む。ただし、購入先のシステムがSupplyOnが提供するサービスの範囲に含まれない。
- **SupplyOn AirSupply** はブラウザインターフェースを通じて物流と財務プロセスを処理するか、EDI（マシーン・ツー・マシーン、M2M）を通じて契約先の内部システムに直接統合する。

SupplyOn サービスに関して詳しくは[www.SupplyOn.com/](http://www.SupplyOn.com/)をご覧ください。または、SupplyOnの連絡係にお問い合わせください。

### 3技術的な制限

AirSupplyにおけるEDI(M2M)を介して行う処理には以下の制限が適用される：

サイズ制限(契約先からSupplyOnに)	伝送毎の最大サイズ：4MB。 制限を越えたファイルはブロックされる。この場合、ファイルをSupplyOnに送信する前に、契約先側がそれを分割する必要がある。
ファイルの分割 (SupplyOnから契約先に)	大きいデータを複数のファイルに分割する必要がある。 (例、20MBのファイルを1つ伝送する代わりに、五つの4MBのファイルを伝送する。)
伝送頻度(SupplyOnから契約先に)	伝送頻度は、契約先がメッセージスケジューラーにて設定することができる。契約先が全てのメッセージ(履歴を含む)を受信する場合、以下の制限が適用される： -VMI：最大一日に一回 -その他メッセージ：最大一週間に一回。

### 4技術的な有効性

SupplyOnは毎月（月曜日から日曜日まで、00:00-24:00）提供する個別サービスを99%生産システムにおいて利用できることを保証する。「利用可能性」とはインターネットにつながるインターフェースにおいて利用できるのである。ISDNにとっては、「利用可能

性」とはSupplyOnにおける入力インターフェースを指す。利用可能性の確認について、定時的、または必要に応じるウィンドーズメンテナンス作業でシステムが停止する場合を除く。一般的に言うと、定期的メンテナンス作業は毎月のある週末に行われる。その前に、SupplyOnはウィンドーズメンテナンス作業の知らせを契約先に伝える。また、利用可能性の確認に関しては、下記の場合も除く。

- いかなる不可抗力
  - 第三者のコンピューター犯罪によるシステム停止
  - 契約先・購入先の従業員による業務停止
  - GTCに反する業務提携
  - インターネット・遠距離通信ネットワークにおける故障、停止

P3/4

バージョン1.3（2011年11月） 購入先の内部システム統合過程におけるシステム停止

## 5必要なシステム必要条件

ブラウザインターフェースを通じてSupplyOnサービスを利用するため、契約先は必要な技術を持たなければならない。（たとえば、発売されたブラウザおよび有効なブラウザバージョン）現在有効システムの要求に関して詳しくは[www.SupplyOn.com](http://www.SupplyOn.com)をご覧ください。

## 6内部システム統合サービス

契約先の内部システムを関連サービス機能を持つシステムと接続するサービスである（統合機能）。この場合、システム間の相互通信が自動的にいき、手動作業の一部・全部を取り替える。

内部システム、またはSupplyOnのデータ形式をベースにする電子商取引プロセスの作成・管理などの準備作業に関する責任は契約先だけにある。

SupplyOnは「SupplyOnサービス」に定めるプロセス規定に基づいて、契約先内部システムの一限りの統合を協力する。したがって、現在有効な「コンサルティングサービスに関する一般規約・条件」も統合サービスに適用される。

## 7安全宣言

SupplyOnはサービスの安全性を保証する。保証範囲に関して詳しくは[www.SupplyOn.com](http://www.SupplyOn.com)をご覧ください

い。

## 8電子メールによる通知及び協力義務

SupplyOnにに登録した顧客が重要なデータを変えるたびに、顧客と取引のあるユーザに自動的に通知するサービスである。詳しくはHPにアクセスして関係文書をご覧ください。そのサービスにもかかわらず、契約先は（顧客の依頼に応じて、）定期的にSupplyOnサービスにログインして取引先のデータ更新をチェックする必要がある。

## 9顧客サポート

顧客サポートは契約先が使用するSupplyOnサービスを協力を。契約先の内部システム（条項2を参考）と購入先のシステム（条項2SupplyOn顧客管理ツールを参考）が提供する顧客サポートは別途説明がない限り、SupplyOnサービスには含まれない。顧客サポートを利用するには、ホットライン、電子メール、オンラインサポートお問い合わせ（サポートボタン）のいずれをご選択ください。

P4/4

下 バージョン1.3（2011年11月）

サポートをご利用いただけます。

サービス	サービスレベル:
ドイツ語・英語対応ホットライン（ファーストレベルサポート）	月曜日-日曜日: 00: 00-24: 00 h
イタリア語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、中国語 対応ホットライン（ファーストレベルサポート）	月曜日-金曜日: 06: 00: 00-20: 00 h CET

本文の日本語版は純にご参考するまで、法律的な効力はありません。もし英語版の内容と違う所があれば、英語版の内容を基準にして、法律的に解決することです。